

令和6年度 自己評価公表シート

認定こども園たちばな

1. 本園の保育理念、保育目標、保育方針

保育理念

一人一人の子どもを大切にし、保護者からも信頼され、地域に愛されるこども園を目指します。

保育目標

「げんきで なかよく がんばる子」を育てます。

保育方針

- (1) 健康な心と体をつくります。
- (2) 自立心を育みます。
- (3) 協同性を育みます。
- (4) 道徳性や規範意識を育みます。
- (5) 社会生活とのかかわりを深めます。
- (6) 思考力を育みます。
- (7) 自然に関心を持ち、命を大切にします。
- (8) 数や図形、文字などへ興味や関心を持つようにします。
- (9) 言葉による伝え合いを豊かにします。
- (10) 豊かな感性と表現力を育みます。

2. 本年度の基本方針

基本方針

各年齢や発達に応じたアタッチメント（愛着形成）により豊かな人間性を持った子どもを育成する。なお、「非認知スキル」・「こどもの主体性」を大切にする。

重点目標

- (1) より質の高い教育・保育を目指し、職員の仕事に対するやりがいを目指す。
- (2) より多くの職員が研修・研究会に参加する。
- (3) 職員の働き方改革を推進し、より働きやすい環境を整備する。
- (4) 地域に根差したこども園を目指し、様々な企業等と連携を図る。

3. 総合的な評価結果

質の高い教育・保育の確保

職員のキャリアアップを目指し、マネジメント、教育保育理論、乳児保育、幼児教育、食育アレルギー、障害児保育分野と様々な研修会にリモート等を活用して参加をして、質の向上に努めた。また、これらの研修を全職員会議（園内研修）で報告をして共通認識が図られた。

研修・研究

令和6年度も園全体で「子どもの主体性」の研究を実践した。子どもたちが今何に興味を持っているのか、子どもたちは今何をしたいのか、子どもたちの声を大切に「主体性」を研究テーマとして行ってきた。令和7年2月にASK研究発表にて発表した。

働き方改革

「職員が楽しく働けなくては、良い保育はできない！」を園のキャッチフレーズに、働き方改革委員中心に現場の課題や悩みを話し合った。令和6年度も、すべての正規保育教諭が10日間の連休を取れるようにシフトを組み実践した。

地域交流

近隣にある割烹料理や「桜あん」にて食育体験を行った。

4、5歳児でお店に行き、目の前で寒鰯を捌く様子を見学したり、炙ってもらった切身を味わったりするなど貴重な体験となった。

4・今後取り組むべき課題

質の高い教育・保育の確保

質の高い保育とは、どんな保育なのか職員全体で考え、共有し、日々の保育を振り返りながら追求していく。

保護者と保育者・園が「こどもまんなか」で一体となって保育が行われていることが大切なため、「共育ち保育」の充実（参加人数の増加）は欠かせないと考えられる。

研修・研究

外部研修会に積極的に参加し、質の向上に努める。園内で教育・保育の質を高める研究を継続して行い、研究発表の場を設ける。

地域交流

地域のお店や企業を園内に招いて、こども園の役割を理解してもらったり、子どもたちとの交流を深めたりと、もっと積極的にアプローチする必要がある。

5. 財務状況

前橋市の指導監査により、適正に運営されていると認められている。

会計監査については、公認会計士の監査により適正と認められた。